

一般財団法人戸隠奥社の杜財団

令和7年度事業計画

【概要】

戸隠神社奥社は、戸隠信仰発祥の地で、奥社、中社、宝光社に鎮座する五社の信仰的核心部であり、その社叢は、樹齢400年にも及ぶ杉の巨木が500mにわたり列状に並ぶ杉並木と、今なお人為的な影響を受けずに遷移し広葉樹と針葉樹が自然な状態で育成されている針広混交林が県の天然記念物に指定されています。また、多種多様な鳥類を育ており、観光地・戸隠高原の特徴として重要な機能を果たしています。奥社参道の随神門より奥社側の範囲は、県指定史跡の戸隠神社信仰遺跡と重複しており、歴史学・民俗学の分野において学術的に高い価値を有しています。本天然記念物は、内包される高い学術的価値を持つ要素が時代の変遷の中で相互に影響しながら形成され現在の姿となったもので、このような場所は国内において類例が少なく、大変貴重なものとされています。

戸隠神社では、本天然記念物奥社社叢（以下：社叢）及び社叢内にある長野県史跡（以下：史跡）の維持管理を長らく担ってまいりましたが、御朱印ブーム、インバウンド需要の拡大などによる参拝者の急増に伴い、神社単独で維持管理することは困難な状況であります。

「戸隠奥社の杜と杉並木を守る会」（以下：守る会）が、平成22年結成され、より専門的な調査研究を展開してまいりました。そこから得られるデータは、この社叢の保存と活用について議論を進める機会の貴重な礎となり、令和5年3月策定の「戸隠神社奥社社叢保存活用計画」（以下：保存活用計画）に活かされることとなりました。この保存活用計画に基づき奥社社叢の保存管理及び活用事業を推進するとともに、必要な計画更新のための調査・研究及び検討を行うことを目的とする「戸隠神社奥社の杜協議会」（令和5年10月設立、以下：協議会）を設置いたしました。

当財団は社叢の「管理団体」として、補助金の交付など行政のご支援の下、募財活動を積極的に展開し、協議会ははじめ様々な団体・個人と連携し、社叢の維持管理と、安全で満足度の高い利用につながる環境整備を行い、更なる魅力の発信につなげてまいります。また、長い奥社の杜の歴史や成り立ち、自然環境等の調査研究に取り組みます。

事業は以下の6つの系統に分類され、募財活動で得られた寄附金を充てさせていただきます。

- 1 奥社の杜維持再生系事業
- 2 施設管理系事業
- 3 調査研究系事業
- 4 普及啓発系事業
- 5 収益事業
- 6 その他の事業

以上を踏まえ、本年は、次に掲げる諸事業に取り組む予定でございますので、関係各位のご理解とご指導ご助力をお願い申し上げます。

【令和7年度 主な事業】

1 【奥社の杜維持再生系事業】

当財団では、協議会が議論を重ねる環境を整え、協議会の方針に沿って守る会が活動を展開できるよう、運営支援をしております。

本年度、協議会は2回の開催を予定しております。

守る会の本年度の事業

- ① 令和4年に補植した杉苗の成長調査
- ② 隨身門付近の危険木（スギ）伐採（別紙）
- ③ 毎木調査（延べ70名参加予定）
- ④ 林間ギャップ調査
- ⑤ 杉並木の落下枝撤去
- ⑥ 杉苗の圃場整備

2 【施設管理系事業】

（1）電力供給工事

戸隠神社では、次回の式年大祭の記念事業として、本年度、奥社社殿・建造物への電力供給工事を実施いたします。

このインフラの整備を受けて、奥社の杜のオーバーユース対策として、奥社参道トイレ新設に向け、建設候補地周辺の埋蔵文化財調査、水系調査のためのボーリング調査を実施いたします。

（2）奥社参道トイレの研究

国立公園内にある社叢においては、トイレ整備を行う際の浄化槽の設置は困難となる見とおしです。そのためには電力供給の裏付けをもとに、バイオ技術を活用せざるを得ません。社叢におけるバイオトイレの気候的適合性などの研究のため、八ヶ岳（茅野市）、剣岳（富山県立山町）などの先行事例の視察を実施いたします。

3 【調査研究系事業】

●史跡調査団の編成

奥社の考古学調査は、昭和38年(1963年)から昭和40年にかけて、戸隠総合学術調査の一環として、地表を清掃しての遺構確認やトレンチ調査が行われ、地表に露出した遺構の確認がなされました。以降、本格的な調査は実施されず、史跡についての新たな知見が加わることはありませんでした。

協議会は、令和6年度第2回会合において、県史跡「戸隠神社信仰遺跡」について史跡の範囲などについて、守る会が中心となり調査することと致しました。当財団では、この調査についての支援活動をしてまいります。

保存活用計画策定における地形調査の過程で、詳細な測量が実施され、UAV レーザ計測による等高線図等が作成され、その成果は、史跡の遺構の見方を一変させました。参道、講堂川の左右に、複数列の人工的な地形改変部分が、水資源確保のための4丁川を伴って存在する可能性が示されたのです。

これらは、史跡範囲を超え、隣接する国有林に広がっておりますので、県・文化庁はじめ行政のご指導ご助力を得て、調査に着手いたしたく存じます。本年度は、史跡の範囲確定のための調査、トレンチ調査を実施する予定です。

尚、調査につきましては、安曇野市豊科郷土博物館の原明芳館長（協議会委員）が中心となり進めてまいります。

4 【普及啓発系事業】

●戸隠奥社の杜シンポジウム（仮称）の開催。

UVA レーザ計測による等高線図により、奥社の地形、歴史に新たな知見が加わりました。過年度の信毎の報道等により、一部公表されておりますが、昨年度の調査の成果を踏まえ、シンポジウム場において、更なる知見を得てまいります。

令和7年7月1日 提出

令和7年7月1日 承認

一般財団法人 戸隠奥社の杜財団

代表理事 中谷 照由